

記入日 年 月

エントリーシート

面接対策

完全ガイド

面接対策の基本から試験別対策まで

ふりがな	
氏名	女
学校名	大学 学部
出身高校	立 高等学校
現住所	ふりがな 〒
E-mail	電話
帰省住所	ふりがな
志望動機	
自己PR	
ゼミ・研究・卒業論文	

履歴書	
ふりがな	氏名
現住所	〒
電話	
FAX	
ふりがな	連絡先 〒
電話	
年	月



はじめに

はじめまして。この度は面接対策完全ガイドEBookをダウンロードいただきありがとうございます。また、いつもASK公務員をご覧いただきありがとうございます。ASK公務員代表の中西と申します。



ASK公務員代表 中西

本書は、面接対策をしたい公務員受験生に向けて、「何をどのようにして書いていけばよいのか?」ということ、具体的にお伝えするものです。

全65ページにわたり、1000人を超える面接指導を行なってきた講師が、面接対策として知っておきたいことやノウハウについてお伝えしています。

もし、今、あなたが次のような悩みをお抱えているのなら、きっと本書は役に立つことでしょう。

- ・これから面接対策を始める
- ・とにかく面接に自信がない
- ・実際に面接対策は何をすればいいかわからない
- ・テーマや試験別の攻略法を知りたい

ぜひ、楽しみながらじっくりとお読みいただけると幸いです。

面接対策講座・面接カード添削のご案内

■面接対策講座

マンツーマンでしっかりと面接対策を受けたいというニーズに応えた講座です。まったくの初学者から模擬面接でブラッシュアップしたい方まで、どのようなご要望にも対応可能です。

詳細はこちら→<https://ask-koumuin.com/interview-lesson/>

■面接カード添削

面接カードの添削を希望の方はこちらをご利用ください。データのものから手書きのものまで合格に導くために細かくチェックさせていただきます。

詳細はこちら→<https://ask-koumuin.com/interviewcard-onlinecheck/>

目次

第1編 基礎編 5

第1章	面接試験の概要	7
第2章	面接試験の形式とポイント	10
	1.個別面接	
	2.集団面接	
第3章	評価項目	14
第4章	面接対策の方法と始める時期	19

第2編 対策編 23

第1章	個別・集団面接共通	25
	1.自己分析の方法	
	2.志望動機の作り方	
	3.面接カードの書き方	
	4.質問集	
第2章	集団面接の対策	40

第3編 試験別攻略編	44
第1章 地方自治体（都道府県・市役所など）	46
第2章 国家一般職（人事院面接）	52
第3章 国家専門職（国税・裁判所事務官）	56
第4章 プレゼンテーション型（特別区など）	61

第1編 基礎編





公務員になるには筆記試験だけでなく、面接も大事って聞いたのですが本当ですか？



はい。最近は面接重視の傾向になっていますね。



筆記試験の勉強だけでも大変そうなのに、面接重視って・・・とっても心配です。



面接試験もしっかり対策を練って準備しておけば心配はいりませんよ。どのように準備すればいいのか、みていきましょう。一緒に確認していきましょう。

第1章 面接試験の概要

.....

———本当に面接って重要？



みんなが面接が重要というけれど、筆記試験でいい点をとらないと面接にいけないので、なんだかピンときません……。



たしかに多くの公務員試験では、まず最初に筆記試験があって、そこをクリアした人が面接を受けることになります。なので、面接より筆記の方が重要な気もするかもしれませんがね。でも、やはり面接は重要なんですよ。

公務員試験は、筆記試験のほかに面接試験があります。面接試験は、1回だけ行うところもあれば、複数回実施するところもあります。また、形式も個別面接や集団面接など、受験先によって様々です（詳細は後述）。

ただ**全ての受験先でいえることは、「面接が合否を判断する最終関門」だということです。**どんなに筆記試験でよい点数をとっても、面接でよい評価を得られなければ不合格となります。

一方、**筆記試験は足切りギリギリであったとしても、面接で逆転して上位で合格することもよくあります。**なので、面接ではとにかく高い評価を得ることを目指してほしいのです。

しょうか。

どれだけ面接試験が重要かは、公務員試験の配点をみれば分かります。試験の配点を公表している官公庁・自治体の例を紹介します。

配点（平成29年）

官公庁	筆記（教養）	筆記（専門）	論文	専門記述	個別面接	その他
国家一般職	2/9	4/9	1/9	-	2/9	
裁判所事務官（一般職）	2/10	2/10	1/10	1/10	4/10	
神奈川県（上級）	100	100	50	-	1回目50 2回目150	グループワーク50
千葉県（上級）	100	100	100	-	400	
千葉市（上級）1次試験	100	100	-	-	200	
千葉市（上級）2次試験	-	-	50	-	150	
埼玉県	100	100	100	-	300	集団討論100

上の図をみると、特に地方自治体では筆記試験の全てを合わせた得点と同等もしくはそれ以上の配点が面接についています。半年から1年にわたって筆記試験の勉強を頑張ってきたとしても、たった1～2回、15分～30分程度の面接で合否が左右されてしまうのです。

国家一般職では一見面接の比率が低いようにもみえますが、国家公務員として採用されるためには試験合格後に官庁訪問をしなければなりません。官庁訪問では各省庁により異なりますが、複数回の面談・面接を繰り返していきます。しかも、実際に採用されるのはごくわずかな人数です。したがって、非常に面接が重視されているといえます。

特別区では配点は公表されていませんが、例年、面接の倍率は1.3倍から1.5倍程度といわれています。数字だけみると、あまり面接が重視されていないように思えますが、特別区の場合は受験者数が1万人程度、面接試験（2次試験）の受験者が3000人弱、そして最終合格が1700人程度です。面接の倍率が

低くても、実際には2次試験で1000人以上という大量の受験者が不合格となっているのです。決して面接では手を抜けないことが分かるかと思いません。

みなさんが志望する官公庁・自治体のホームページで配点を調べてみましょう。

地方自治体は配点を公表していないところも多いですが、面接重視としている自治体も一昔前と比べてかなり多くなってきている印象です。配点が公表されていない場合は、「実施状況」をみてみましょう。1次試験（筆記）でたくさんの合格者を出して、2次試験（面接）でたくさん落とす、という自治体はかなり面接に力を入れていると考えておきましょう。

筆記試験で合格ラインをクリアしなければ、もちろん面接には進めません。でも、最終合格するには面接でしっかり合格点をとる必要があります。そのことを頭にいれて、早い段階から面接試験の準備をすすめていきましょう。



第1章 ここがポイント

- 近年の公務員試験は面接重視傾向！
 - ・東京都・特別区…1.3倍～2倍程度
 - ・県庁・政令都市…3倍程度
 - ・市役所…4～6倍程度

 - 面接対策は早めに取りかかろう！
-

第2章 面接試験の形式とポイント ……

——面接では集団面接を行う官公庁も！



実際の面接は、どんな形で行われるんですか？



みなさんがイメージするのは受験者1名が面接官と対面して行う個別面接だと思いますが、公務員試験では個別面接の他に、集団面接が行われるところもあります。」



個別面接と集団面接では何が違うのでしょうか？



それでは、どのように面接が行われるかポイントもふまえてそれぞれ確認してみましょう。

1 個別面接

公務員試験で一般的に行われるのは個別面接です。

【特徴】

- ・ 受験生1名に対して、面接官が複数（3～5名程度）いる形式
- ・ 面接時間は15分～30分（45分くらいになる受験生もいる）
- ・ 国家公務員試験の人事院面接や裁判所事務官など・・・個別面接1回のみ。

地方自治体では、個別面接を1回～複数回行うところも多い。

特に、市役所など規模の小さい自治体では、3、4回個別面接を行った
り、個別面接と集団面接の両方を行うことも非常に多くなっています。

官公庁によって回数は様々なうえ、その回数自体を減らしたり増やしたりすることがあります（特別区は長年、個別面接を2回実施していましたが、現在は1回のみ）。ただ、公務員試験に合格するためには、必ず個別面接を1度は受けることになりますので、しっかりと準備を進めていきましょう。



【個別面接のポイント】

個別面接の準備をするうえでのポイントは、「面接カード」の書き方です。面接官は、受験生1名に対して15分以上の時間をかけてじっくりと話を聞き出していきます。そのときの質問のきっかけになるのが事前に提出する面接カードです。面接官が面接官にざっと目を通したときに、「これをもっと聞きたいな！」と思わせるような内容をカードに書いていく必要があります。面接カードの書き方については第2編第1章で紹介します。

※面接カードの内容には一切ふれず質問をしてくる面接官もいます。そんな面接官でも、面接カードには目を通して一通りの判断（評価）をしていますので、面接カードは決して手を抜かないようにしましょう。

2 集団面接

公務員試験では個別面接と合わせて集団面接が行われることがあります。

【特徴】

- ・ 受験生複数（5～6名）に対して、面接官も複数（3～5名程度）いる形式
- ・ 面接時間は30分～60分程度
- ・ 県庁や市役所等で行われることが多い。
- ・ 個別面接の前に行う場合もあれば、個別面接の後に最終面接として行う場合もある。
- ・ 面接官の質問に対して受験生が答えるときは、「端から順番に答える場合」や、「面接官が質問ごとにランダムに指名する場合」、「挙手をさせる場合」などがあり、質問後とに指示される。

官公庁によって回数は様々なうえ、その回数自体を減らしたり増やしたりすることがあります（特別区は長年、個別面接を2回実施していましたが、現在は1回



【集団面接のポイント】

集団面接で質問される内容は個人面接の内容とほとんど変わりません。なので、必ず実施される個別面接の準備を万全にしておけば回答については心配ないでしょう。

しかし、集団面接は非常に厳しい面接といえます。なぜなら、他の受験生と直接比較されてしまうからです。回答の内容だけでなく、「元気の良さ」「明るさ」「積極性」「本命度」など…。また、自分が答えようと思っていたことを先に他の人に言われてしまうこともよくあります。そんな時に動揺せずに冷静に面接を受け続けられるか…。

集団面接は個別面接以上に緊張して、自分をうまく表現できずに失敗してしまう可能性が非常に高い面接です。だからこそ入念な準備が必要となります。詳しい対策は第2編第2章で紹介します。



第2章 ここがポイント

個別面接…受験生1名：面接官3名～5名程度
「面接カード」が重要なポイントに！

集団面接…受験生複数名：面接官複数名
「他の受験生と直接比較される」厳しい面接！

.....

第3章 評価項目

——面接ではなにを見てるの？



面接って、面接官の主観的判断がすごく強い気がするんですが…。面接対策って意味があるんですか？



たしかに筆記試験と違って、客観的に点数がつけられているのか不安になりますよね。でも、**面接官はすでに用意されている評価項目にしたがって客観的に評価していますよ。**



評価項目？そんなのが用意されているんですか？



はい。では見ていきましょう。

面接官は、各官公庁が独自に用意した様々な項目（評価項目）をチェックしていき、総合評価を出します。総合評価というのは、具体的に「73点」といった細かい点数をつけるのではなく、「ABCD」や「優良可・不可」といった4～5段階評価をつけるということです。

そして、「D（官公庁によってはE）」や「不可」と評価された場合は、筆記試験や論文試験など他の試験がどんなに高得点であっても不合格となります。いわゆる足切りです。

したがって、まずは「D（官公庁によってはE）」や「不可」をとらないことが合格には絶対条件となりますが、後述の評価項目をしっかりとクリアしていけば問題なく合格ラインに立つことができます。

一方、「A」や「優」といった1番良い評価をとることは難しく、上位10%以下とされています。しかしこの評価を得ることができれば、面接以外の筆記試験などで失敗していても、面接だけで逆転し上位で最終合格することができます。実際にそういう受験生が毎年現れます。

それを狙うには、やはり評価項目を1つ1つ深掘りして準備していくことが大事なポイントになります。

各官公庁の評価項目は独自のものであり公表されていないことがほとんどですが、概ね次のような項目が用意されています。

では一般的にチェックされる評価項目を次ページで見てください。

【評価項目】

①態度・服装

- 面接にふさわしい/公務員にふさわしい、服装・態度か
- 適切な言葉遣いか
- ハキハキしているか/元気で明るい性格か

②表現力・理解力・論理性

- 質問に的確に答えられているか
- 自分の言葉で考えを伝えられているか
- 論理的に分かりやすく答えられているか
- 発言に説得力があるか
- 発言に矛盾はないか

③協調性・適応性

- 団体生活に適合するか
- 自己本位の感情が強くないか

【評価項目】

③協調性・適応性

- 他人の意見を受け入れる姿勢があるか
- 他者との調整を通して意見をまとめることができるか
- 物事を継続して取り組むことができるか

④責任感・堅実性

- 責任感が強いのか
- 公務員として何をしたいのかが明確か
- 公務員にふさわしいものの考え方か
- ストレスには強いのか

⑤積極性・向上心・社会性

- 積極的に課題や困難に取り組む事ができるか
- 向上心があるか
- 受験先の政策課題などを研究し理解しているか

【評価項目】

⑤積極性・向上心・社会性



前向きな思考か

時事問題に興味があり、自分の意見をもっているか
その考えに偏りはないか

以上の評価項目を網羅すれば上位合格も夢ではありません。少なくとも面接で足切りされることはありません。

面接準備をする際に必ず確認してくださいね。



第3章 ここがポイント

●面接で足切り（「D（やE）」・「不可」などの評価）をされないことが絶対条件。

●評価項目を1つ1つ掘り下げて用意し万全の準備をすれば、筆記試験の点数が低くても、上位で最終合格が可能！

.....

第4章 面接対策の方法と始める時期 ……

——面接対策は合格発表後でも大丈夫？



第3章の評価項目をみて、なんとなく準備すべきものがみえてきました！



それは良かったですね。



でも準備するにはちょっと時間がかかりそうですね。といっても、筆記の勉強で大変だし……。準備は合格発表後になっちゃいますよね。



合格発表後では間に合わないものもありますよ。



えっ!?

公務員試験の流れは一般的に、

1次試験（筆記）→1次合格発表→面接カードを提出→2週間～1か月後に、
2次試験（面接等）/3次試験・・・最終合格
となっています。

多くの受験生が公務員試験を3、4つ併願するために、6月などは筆記試験と面接カードの準備が重なってしまうことがよくあります。面接カードは面接の肝となるものです。それが、併願先の筆記試験の勉強のために完成度の低いものとなってしまったりは取り返しのつかないこととなってしまいます。

したがって、**面接の準備は可能な限り早い段階から進めていくのが理想的です**。といっても現実はなかなか難しいもの…。

そこで、第3章であげた評価項目に沿って、効果的な面接対策の方法と対策を始める時期をお伝えします。

【評価項目別ポイント】

①態度・服装・・・対策は面接直前でも間に合う

声の大きさや話し方の雰囲気は、第三者に一度確認してもらえばすぐに欠点に分かり直す事ができます。模擬面接の様子をスマホなどで録画して自分でみてもよいでしょう。普段、声が小さく控えめな人は、ハキハキと話すことができるように練習することが必要です。必ず声を出して練習しましょう。もともと人前で話すことが苦手な人は場数を踏むことも必要です。面接カードの準備等がある程度整ったら面接本番までたくさん人前で練習をしてください。必ず話し方は上達します。

②表現力・理解力・論理性・・・

対策は筆記試験合格発表後からでも間に合う

この項目に苦手意識がある人でも、練習を重ねれば比較的容易に評価をあげることができます。まず、①面接カードなどの準備を通して、1つ1つ掘り下げて自分の頭の中を整理していくこと。そして、②実際の質問を想定してどのように答えていくかを考え、声を出して表現してみる。この2つを繰り返していきましょう。

③協調性・適応性・・・

受験勉強を始める前からの準備が必要。面接の要！

協調性や適応性は、これまでの経験（学生生活、アルバイト、部活動など）が必要になります。面接試験の直前に準備できるものではありません。受験勉強が始まる前に意識して経験を積んで行く必要があります。万が一、何もせずに漫然と学生生活を送ってしまったという方は、プロの面接講師に相談をしましょう。そのような受験生でもどこかの官公庁に合格することは可能です。

【評価項目別ポイント】

④責任感・堅実性 ・ ⑤積極性・向上心・社会性
・・・公務員試験を決めた時から意識し始める

なぜその官公庁を志望するのかを伝えられるようにするために、その官公庁が取り組んでいる事や、今抱えている課題をしっかりと調べ、自分が職員になった際にはどのような仕事につきたいのかなどを考えていきましょう。このような作業を通して、志望先の熱意も高まっていきます。



第4章 ここがポイント

- 面接の要となるのは、
「これまでの経験（学生生活、アルバイト、部活動など）」
 - 受験勉強開始前に語れる経験があるか確認しておこう！
-

第2編 対策編



第1編で面接試験の重要性と大まかな流れをつかんでもらいました。ここからは、いよいよどのように面接の準備をしていけばよいのか。面接対策についてお話していきます。第1章では個別面接、集団面接で共通の対策方法。第2章では集団面接特有の対策方法を紹介します。

第1章 個別・集団面接共通



面接対策で大事なことってなんですか？



面接では、受験生の色々なことを根掘り葉掘り聞いてきます。なので、①**自分を知ることが1番大事**。そして就職試験である以上、なぜその受験先を選んだのかもとても重要です。そこで、②**志望先の官公庁・自治体についてよく知ることも非常に重要**です。



なるほど……。でも、具体的にどうやって準備すればよいのですか？

なぜその官公庁を志望するのかを伝えられるようにするために、その官公庁が面接試験で問われることは大きく分けて、①受験生自身の経験や性格、そして、②志望理由、の2つです。たった2つですがしっかりと準備をしておかなければ、本番の面接で言いたい事が言えずに終わってしまうことになってしまいます。そのような受験生が毎年たくさんいて残念な結果になっています。そうならないように、ここから1つずつ準備を進めていきましょう。

1 自分を知る

面接官は受験生自身を知るために、

- ・自己PR
- ・これまで力をいれてきたこと
- ・長所・短所
- ・趣味・特技

といったことを質問します。面接カードにもこれらの記入欄があることがほとんどです。どのように準備をすればよいのか見ていきます。

①自己PR／これまで力をいれてきたこと

面接で1番重要な項目です。

次のことを書き出しながら自己分析をしていきます。

(1) 高校時代・大学時代（もしくは直近5～6年位）の「楽しかったこと、辛かったこと、頑張ったこと、困難をのりこえたこと」を細かく書き出す。

「野球部で県大会で優勝できなかったことが辛かった」だけではNGです。

そこを掘り下げて、

→ 県大会優勝を目指していたのに、やる気のない部員がいた。その部員にやる気を出してもらうために、毎日粘り強く話しかけたり、一緒に自主練をしたりした。

→ 自分は打率が低かった。その原因を知るために、何度も録画してフォームを確認した。フォームを改善するために〇〇した。早朝と帰宅後に〇分自主練した。

→ 勉強との両立が辛かった。両立するために、〇〇した。

というように、どのような行動を行ったのかを掘り下げていきます。

(1) の続き

全てを書き出した中から、実際の面接でアピールすることを取捨選択していくようにします。

(2) 1 で出した経験を通して、「自分はどんな点で成長できたか、自分の強みは何か、逆に弱みは何か」をそれぞれ書き出していく。

(3) 2 で出した「成長した点、自分の強み」を社会人としてどのように活かせるかを考えて書いてみる。「自分の弱み」は、どのようにしたら改善できるか考えておく。

上記(1)～(3)の書き出しは1日では終わりません。翌日、翌々日ノートを見返す度に修正したり、追加したりしていくことになるでしょう。何日もかけて自己分析を進めてください。

自己分析を終えたら、そこから実際の面接でアピールする内容を文章にしてみます。気をつけなければならないのは、自己紹介ではなく、自己PRという点です。



(悪い例) . . . 自己紹介的な内容で、
何を伝えたいのかが分からない例。

「私は小学生の時からピアノを習っていて、大学では音楽サークルに所属していました。たくさんの友人と素晴らしい思い出を作ることができました。友達からは優しくて気が利くと言われます。」

面接官が知りたいのは、あなた自身の売り（自己PR）です。上の例はただの紹介に終わっていて、「だから何？」という状態。みんなで楽しく歓談する飲み会の場ではありません。積極的に、「私はこういう強みがあります！」ということを伝えましょう。



(良い例) . . . 自分のある1つの経験に基づいて長所を
アピールしている良い例。

「大学で所属していた音楽サークルでは渉外を担当しました。演奏会の資金調達のために、できるだけ多くの卒業生に連絡を取り交渉をしてきました。交渉がうまくいくように資料を作成するなど事前準備を徹底的に行い、結果的に〇〇円の支援を得ることができました。このような積極性を職員としても活かすことができます。」

本番の面接でもっと詳しく聞いてもらえるように、全てを説明するのではなく、大まかな概要でまとめているもの良い点です。まとまった文章を作るのはとても難しいものです。できる限り第三者に見てもらおうようにしましょう。

②長所・短所

①の自己PRの延長です。①がしっかり準備できていれば大きな準備はいりません。

①で抽出した様々な経験の中から、長所と短所を1つまたは2つ抽出するだけです。

たとえば、長所が「粘り強いこと」なら、なぜそう言えるのかを①で書き出したエピソードの中から選んでおきましょう。短所については、その短所を直すために継続的に努力していることや意識していることを用意しておく必要があります。

たいていの面接カードには長所・短所の欄ありますが、実際の面接では長所よりも短所を中心に聞かれることが多いです。とはいっても、長所・短所ともに必ず簡潔に説明できるように用意しておきましょう。

③趣味・特技

上記①②と比べて、面接中に全く聞かれないことも多い項目です。しかし、趣味・特技をきっかけに面接官との会話がはずんで、面接全体が良い雰囲気で行われ、好評価につながることもあります。

まず男性で多いのですが、「競馬、麻雀、競輪などの賭け事系」はよほどのことが無い限りは記載しないようにします。ただ、「競輪選手を目指していた」とか「麻雀大会で全国大会に出場」したような、**自分の努力を語れるような場合は自己PRも兼ねて記載します。**

男女ともに多いのが、「カラオケ」です。こちらもできるだけ他の趣味・特技を探してほしいところ。「カラオケ大会で優勝」などの経験がある場合は記載OKです。

全く趣味（好きなこと）がない人がいても仕方がないと思います。しかし、無回答というわけにはいきません。読書（漫画以外のジャンルを決めておく）、映画（2、3つ面接前に見ておく）、スポーツ観戦（サッカー・野球は無難ですが、面接官にどのチームのファンか聞かれてしまうことも…）など**無難な趣味を準備しておきましょう。**

正直な所、それほど悩まなくてよい項目です。

2 志望先動機の作り方

公務員試験の場合、ほとんどの人が数カ所以上の官公庁を併願しています。本命が1つ、残りは滑り止めです。一方、採用者にとっては、「この受験生は本当に自分のところを選んでくれるのか？」というのが最大の関心事です。どんなに素晴らしい人材でも、本命ではないと分かった瞬間に不合格とすることも十分にありえます。

したがって滑り止めであっても合格しておきたいのであれば、その受験先のことを研究し、「なぜここでなければいけないのか」、という考えをしっかりと持っておく必要があります。

それではどのように志望動機を作っていくか、順番にみていきましょう。

①「なぜ民間企業ではなく公務員か」を考える

まず、受験先の志望動機を考える前に、「なぜ公務員か」を考える必要があります。実際の面接でも定番の質問の1つです。

【本音】

みなさんの本音には、「公務員は安定しているから」という考えがあるかもしれません。たしかにそうかもしれません。

しかし、本当に安定しているといえるのでしょうか？

→時々、ある地方公務員が仕事ができないという評価を受けて解雇されるというニュースが流れることがあります。

→近年、国家公務員も含め各自治体で給与は軒並み下がっており、15年前に比べて平均年収が約200万円下がったという数値を公表している自治体もあります。

親世代の公務員に比べ、安定性はかなり揺らいでいるようです。

また、「プライベートの時間を取りたいから」という本音もよく聞きます。

たしかにあまり残業のない役所・部署も多くあるようです。

しかし、

→残念ながら、中央省庁の国家公務員は終電ギリギリまで働く人がたくさんいます。本当は終電以降も仕事をしたいけど、タクシー代が払えないから終電にかけこむという事態。

→市役所等でも部署によっては、終電や土日出勤もあります。しかも予算の関係で残業代が半分も出ないこともあります。

このように、実際には公務員として働くということは大変なこともたくさんあるのです。

このような本音はあくまで本音であって、「実際の面接試験で言うはずがない」と思っているかもしれませんが、実際には、面接官と意気投合し盛り上がってしまったあげく、素が出てうっかり言ってしまう、という受験生が少なからずいます。調子に乗りやすい人はちょっと注意をしておきましょう。

②それらしい理由だけどダメな志望理由

「民間は利益を追求するが公務員はそうではないから。」

よく聞く志望理由ですね。しかし、なぜ利益追求がダメなのでしょう？

利益追求がなければ、社会経済は停滞し、税金も上がらず、その結果行政サービスを行うことができなくなってしまいます。

また、公務員の事業の財源は税金です。その予算は限られており、その中で最大限のパフォーマンスをしなければ国民は納得しませんし、お金の使い道は常に国民の目にさらされます。公務員は国民（住民）のために最大限の利益を追求できる事業を行わなければならないともいえるわけです。

お金を使って事業を行う以上、やはりどんな形であれ利益を追求することは必要でしょう。

とはいっても、たしかに民間企業は「特定の商品の利益」をあげるために様々な手段を駆使します。公務員も利益追求することはあるけれど、民間企業とはまた違ったものになります。

民間企業経験者はその点を、経験をふまえて説明できれば、むしろ面接官は「なるほど」と納得してくれるはずです。

③民間企業との違いをどのように考えればよいか？

基本的に、「公務員でなければならないこと」を自分の経験を交えて考えることがよいでしょう。

この点、国税専門官や裁判所事務官などの専門職は非常に簡単です。なぜなら、税金（国税）の徴収は国税専門官にしかできません（銀行や金融機関はできません）。裁判手続の仕事は裁判所職員にしかできません。

同様に、専門分野を扱う国家公務員も比較的簡単です。入国管理業務は入国管理官しかできませんし、通信の管理・統括は総務省に入らなければできないわけです。

一方、地方公務員については若干注意が必要です。

たしかに、福祉や雇用政策は地方公務員の仕事のひとつです。しかし、それは民間企業や非営利団体では本当にできませんか？このようなことを念入りにチェックしていただきたいと思います。

④公務員として何ができ、何をしたいのか？

たとえば自治体は、福祉や雇用政策について民間企業や非営利団体の協力を得て行っています。そうすると、公務員ではなく民間企業に勤めてそこで力を発揮すればよいということにもなってきます。

そこで、「公務員の立場で何ができ、何をしたいのか」を明確にする必要が出てきます。

公務員は何ができるのか、というのは実際に働いた人にしかなかなか分かりません。しかし、自治体のホームページや広報誌などで、どんなことを自治体が主体となって行っているかは確認ができます。また、実際に働いている人に仕事の話聞くこともあるかもしれません。

最近では、自治体でインターンシップを行ったり、業務説明会も積極的に行っています。そこで現場で働く職員の生の声を聞くということは非常に有意義です。

(この調査は予備校に頼らず、きちんと自分の手足を使って情報収集をすることをおすすめします。なぜなら、ヒトから聞いた話は聞く段階で情報が歪曲してしまうこともあるからです。)

このように、「民間ではなく公務員として働きたい理由」と「公務員の中でも、その官公庁・自治体でなければならない理由」の両方を自分の頭でしっかり考えていきましょう。

なお、「試験種別の志望理由」は第3編の応用編で紹介します。

3 面接カードの書き方

自己分析と志望動機を納得いくまで掘り下げて考えたあとは、いよいよ面接カードを書いていきます。面接カードは官公庁によって様々です。

たとえば、A4サイズ用の紙に項目が4～5つあり、それぞれ5～6行で記入するものや、用紙に対して項目が多く、1つについて1～3行で簡潔に記入していくものなどがあります。

たいてい文字数の指定はありません。

重要なのは、面接官にとって「見やすい」面接カードであることです。

「面接カードはびっしり書かなければならない！」と思って、細かい字ですきまなく埋める受験生がいますが、これは逆効果です。次の点に注意して記入しましょう。

- 面接カードの大きさに対して適切な大きさに文字を書くこと
- 両端をそろえて文章をかくこと
- 文章の終わりはできるだけ余白を作らないこと
(多少あっても問題ありません)
- 枠からはみ出ないこと
- 誤字がないこと

面接カードは必ずコピーをとって何度か試し書きをし、それを第三者にチェックしてもらいましょう。そして最後に清書をします。事前に提出するように指示されている場合は、郵送にかかる日数などを確認して確実に〆切日までに到着するように発送してください。

4 質問集

公務員試験では定番の質問が存在します。どの官公庁でも聞かれやすい質問項目をあげますので、対応できるようにシミュレーションしておきましょう。

■自己PR／経歴に関する質問例

- ・自己PRを30秒でお願いします。
- ・これまでチームで取り組んで来た事は？そこで学んだ事は？あなたの役割は？
- ・これまで個人で力を入れて取り組んで来た事は？そこで学んだ事は？
- ・サークル（部活）では副部長を努めたようだけど、リーダータイプではないの？
- ・サークル（部活）ではまとめ役をしてたようだけど、自分の意見は言わない方なの？
- ・ボランティア活動を色々やっていたようだけど、なんでボランティアをしようと思ったの？
- ・どうしてそのゼミに入ったの？そのゼミでは何を学んだの？
- ・色々な活動をしてたようだけど、何か継続して力を入れたことはないの？
- ・アルバイトでバイト責任者をやっていたようだけど、それって社員がやることではないの？
- ・アルバイトで工夫して取り組んだことは何？
- ・アルバイトで社員からどのような評価を受けていた？
- ・アルバイトで社員や他のアルバイトのメンバーと対立したことはない？
- ・大学でしっかり勉強したの？
- ・今まで1番プレッシャーを感じたことは？それはどのように乗り越えた？
- ・今まで1番幸せだったこと（嬉しかったこと）は？なぜそう感じたの？
- ・民間企業を辞めて公務員を目指した理由は？
- ・前職で上司や同僚とトラブルになった経験は？
- ・前職で1番大変だったことは？それはどのように乗り越えた？
- ・前職で経験したことを、公務員になって活かせる？
- ・短所が慎重すぎるのとあるけど、それって長所では？

■志望理由に関する質問

- ・あなたの志望理由はこの市でなくてもよいよね？
- ・この市の魅力は？3つあげて。
- ・この市の問題点は？3つあげて。
- ・生まれたところに恩返ししたいってあるけど、この市の民間に勤めればよいのでは？
- ・なぜ民間企業の利益追求がいやなの？
- ・大学で学んだことは公務員になって全く活かさないけど、どう考えてるの？
- ・民間企業と公務員の違いはどう考えてる？
- ・公務員の仕事のどんなところにやりがいを感じるの？
- ・あなたの言ってることは、都道府県の仕事ではなく基礎自治体の仕事だけど。
勉強不足じゃない？
- ・併願先は？本当は、ここは滑り止めでしょ？
- ・ここに勤めることになったら、やってみたい業種は？それはなぜ？

■その他（雑談的な質問だが、意外と人物をチェックしている質問）

- ・声が大きいね。いつもそんなに大きい声なの？
- ・今日はこの面接会場までどうやってきたの？
- ・今回、不合格だったらどうする？
- ・職場で気の合わない人がいたらどうする？
- ・公務員の仕事は地味だけど、本当にやっていける？
- ・公務員バッシングについてどう思う？
- ・公務員の不祥事についてどう考えている？
- ・親友は何人いる？
- ・友達からあなたはどんな性格って言われる？
- ・あなたは公務員に合わないんじゃないの？
- ・ストレス耐性はある方？あるっている理由は？
- ・英語が得意なようだけど、公務員になったら使う機会はないよ。それでもいいの？
- ・公務員になることについて誰かに相談した？
- ・資格をいろいろ取得しているけど、なんで取ったの？必要なの？
- ・休日はどのように過ごすことが多い？
- ・ここの市長の名前をフルネームで。
- ・好きな色は？それはなぜ？
- ・どうせ公務員予備校でそう答えるように指導されたんでしょ？

第2章 集団面接の対策

———集団面接は個別面接より難しい？



私が受ける県庁では集団面接があるんです。やったことがないので緊張します。どうやったらうまくできますか？



集団面接も、面接の内容は個別面接とほとんど変わりません。ただ、集団で行うという点では、個別面接よりも対策が必要です。

第1編第2章で既に述べたように、県庁や市役所、また国家公務員の官庁訪問で集団面接が行われることがあります。

ここで、形式的なことをもう一度確認しておきましょう。

【集団面接の実施形式】

- ①面接官は3～5人程度（3人の場合が多い）
- ②受験生は5～6人程度（8名くらいになることもあります）
- ③時間は30～60分程度
- ④質問に対しては、端から順番に答えさせたり、挙手制で答えさせたり、ランダムに指名したり、面接官によって様々
- ⑤面接官に対し受験生が対面して座り、複数の受験生が同時に比較される

特に人物重視傾向にある県庁や市役所では、筆記試験ではあまり受験生をふるい落とさずに、**個別面接・集団討論・集団面接の面接を複数回実施して採用者を決定することが多くなっています。**

面接の順番は自治体によりまちまちで、集団討論・集団面接を先に実施するところもあれば、集団面接を最後に行って採用者を最終決定することもあります。

集団面接では面接官として、（市役所の場合は）市長や副市長、教育長などの要職が並びます。そのために、面接を行う前からとても緊張してしまう受験生も多いです。しかし面接官は、緊張するのは当たり前と思っているので、できるだけ会話を通して緊張をほぐしてくれることもあります（たとえば、質問の始めに、「今朝は何を食べてきた？」とか「ここまでどういう交通手段で来たの？」など、だれでも簡単に答えられるような質問をしてくれることもよくあります）。

そのため、「**集団面接 = 偉い人がいっぱい = こわい!**」と考えてしまわないようにしましょう。細かい対策をする以上に、このような心構えもとても重要です。

次に、具体的に集団面接のための対策方法を紹介します。

①評価項目は個別面接とほぼ同じ

集団面接だからといって個別面接と異なる基準で評価されるわけではありません。基本的には個別面接と同様の基準で評価されます。

したがって、第2編第1章で紹介した個別面接の対策をしっかりと行いましょう。

②他の受験生の話も聞く

集団面接ならではのポイントです。一度質問を受けて次の受験生に質問が移っても、「〇〇さんの意見についてはどう思いますか？」と質問が戻ってくることがあります。自分の発言が終わっても安心せずに、他の受験生の話をしっかり聞いてください。その聞いている姿勢も面接官はみていて評価していきます。

③質問には簡潔に答える

個別面接以上に注意しなければならないポイントです。集団面接は、短いときは30分程で複数の受験生に様々な質問をし評定をつけていきます。1人が長々と話してしまうと他の受験生の面接時間も削ってしまいます。とりとめもなく長く話すような受験生は、面接官が話を止めることもあります。そうならないようにできるだけ簡潔に答えてください。

面接官がもっと話を聞きたいと思えば必ず「もう少し話してもらえますか？」とか「それは具体的にどういうことですか？」などと問いかけてもらえます。

④挙手制での注意点

面接官に「挙手で答えてください」と言われた場合、積極的に手をあげるようにしてください。手を挙げないと発言回数が減り、その分アピールポイントも減ってしまいます。しかし、毎回1番早く手を挙げる必要はありませんし、気後れする必要もありません。重要なのは答えの中身です。自分の考えがまとまってから挙手するようにしましょう。

⑤どنگりの背比べではダメ

複数の受験生の中で自分をアピールする必要があります。たとえば集団面接のある回で8人の受験生がいても、みんながぱっとしないどنگりの背比べのような状態だと、8人全員が不合格となることがあります（逆もあります）。そうならないように、自分が1番だという意識を持って積極的にアピールをしていきましょう。

上記の②～⑤は、分かっているけど実際にやってみるとうまくいかないことがよくあります。なので、大学や予備校、公務員受験の仲間と、1度は練習しておくべきです。1度練習したことがある受験生とそうでない受験生には実際にかんがりの差が出ます。



第2章 ここがポイント

- 「偉い人に面接されても怖くない！」と思い込むことが大事（精神論）。
- 個別面接の対策をしっかりしたうえで、集団の中でも萎縮しないように1度は集団で練習すべし！

第3編 試験別攻略編



ここからは、受験先別の面接対策ポイントをお伝えしていきます。



受験先によって対策が変わるんですか？



基本的に大きく変わることはありません。第2編の対策編でお伝えしたことをポイントに準備すれば対応はできます。

ただ、公務員受験生は併願するのが一般的なので、採用側としては、「本当にこの子はうちの省庁にきてくれるのかな？すべりどめなのかな？」と

思っています。そこで合格を勝ち取るためには熱意を伝えなければいけないのですが、受験先によっておさえておくべきポイントがあります。それを第3編でみていきましょう。

第1章 地方自治体

(都道府県/政令指定都市/市役所等)

——自分ならではの志望動機を作りあげよう。



志望動機が書けません！転勤は絶対に嫌で、地元で働きたいだけなんですけど。だめですか？



地方自治体を受験する人のほとんどの本音がそれですよ。面接官も昔は受験生、多分同じ気持ちで受験している人が多いと思います。ですが、大人なのでやはり建前が必要です。

ただ、建前と言ってしまいましたが、その自治体で働きたいという熱意がないと、公務員の仕事がつまらなくて辞めてしまうという事態になってしまうこともあります。実際に離職する人もけっこういるんです。



せっかく入ったのに辞めてしまうなんてもったいない！



自治体側としても大きな損失です。だからこそ面接では、本当にその役所の仕事を理解しているのか、その自治体・住民のために頑張っていこうという意欲はあるのか、ということを見定めているのだと思って下さい。



はい、分かりました。でも、何を書けばよいんですか？

志望動機の考え方

国家公務員の行政職なら省庁別に扱う分野が決まっていますし、専門職（国税専門官や裁判所事務官，技術職など）であれば携わる仕事は明確なので志望動機は作りやすいです。他の受験生と似たような志望動機になっても、それはそれで合格することもしばしばあります。

一方、地方自治体の場合は扱う分野が広範囲にわたるため、志望動機も受験生によって様々。個性が出る項目であり、しっかりと準備しておく必要があります。



(悪い例)

- ・生まれ育った〇〇市に貢献したいと思ったから。
- ・自然と都会が融合した〇〇市に魅力を感じたから。



(良い例)

大学のゼミナールで、地方創生について学ぶ中で市職員の仕事に興味を持ちました。〇〇市では雇用問題が課題となっていますが、〇〇〇という魅力があります。それらを活かして雇用を創出し、地域の活性化を図って行きたいと考えています。

前ページの（悪い例）は、多くの対策本や予備校講義でNG例として紹介される悪い例です。それにもかかわらず、このようなフレーズを志望動機に書いてくる受験生が後を絶ちません。

個人的には、「地元〇〇市に貢献したい」という文言を挿入するのは良いと思っていますし、そのように書いて内定を得る受験生をたくさん知っています。ただ、「地元」「愛着ある」といった内容をメインに書くことはNGです。地元貢献したいなら地元企業に就職してもよいですし、地方議員になり政治家として活動する方がよいでしょう。

そこで志望動機を考える際は、（良い例）のように、受験する自治体の課題を見つけ、その課題に対してどのように取り組みたいのか、自治体職員としてできることを説明していくことが重要になります。

①志望動機の作り方

志望動機を考える際には次のようなステップで整理していくと、より説得的な志望同期ができあがります。

STEP1

その自治体を受験しようと思ったきっかけ＋自治体の課題を考える

最も「個性（自分ならではの志望動機）」を出すことができる部分です。たとえば、大学のゼミやフィールドワーク、ボランティア活動、民間企業での経験を通して感じた、その自治体の「課題」を説明していきます。

大学の講義やゼミで学んだことがその自治体を対象としていなくても問題ありません。たとえば、大学で「地方創生と行政の在り方」についての理論を学んできたから自治体職員を目指そうと思った、というきっかけでもかまいません。そのあとに、数ある自治体の中からなぜその受験先を選んだのかを説明してください。

また、その自治体が地元だから受験する、という単純な理由の場合は、「地元だからこそ、その住民として感じたその自治体の課題」を見つけて下さい。

STEP2

機構図＋総合計画から、自治体職員の仕事を知る

ステップ1で課題を見つけたとしても、その課題を自治体職員として解決していくことができなければ意味がありません。

たとえば教育に興味があり、9月入学の制度の実現に向けて取り組みたい、と強い思いがあったとしても、それは地方自治体の仕事ではありません。一方で、教育格差をなくすためにICTの導入を促進していく、という取り組みは自治体として可能でしょう（実際に力を入れている自治体もあります）。

幸いにも、地方自治体で取り扱う分野は広範囲にわたります。自分はその分野に興味があり、自治体職員としてどのように取り組んでいきたいのかを明確にすることが重要です。

地方自治体の仕事はホームページから調べることができます。**組織図（機構図）**と呼ばれる自治体の部署を紹介しているページがあるので、全体的にどのような部署があるのか確認してみましょう。そこから自分の興味ある部署を3つ程度ピックアップし、それぞれの分野について掘り下げていきましょう。

*自治体の面接では、「他にやりたいことはないの？」と質問されることがよくあるので、必ず複数の分野を選んでください。

仕事を掘り下げる際には、自治体の「**総合計画**」などを読み込むこととなります。「総合計画」や「重点政策方針」、「まちづくり戦略ビジョン」など呼び名は自治体によって異なりますが、必ず自治体ホームページの「市政情報」「県政情報」といったページで紹介されています。

すべてを読み込む時間がなければ、まず、目次に目を通し、興味ある分野から順に読んでいきましょう。

ホームページだけで自治体の仕事を理解することはできませんが、最低限の知識を入れておくことは重要です。そして、**どうしても気になることは、自治体に電話をしみるとよいでしょう。**親切に対応してくれることが多いです（採用には全く影響しませんのでご安心ください）。また、最近では自治体が積極的に説明会を開催してくれています。そこでぜひ、質問をしてください。

STEP3

どのような自治体にしたいのか、どのように貢献したいのかを示す

(例1) 「〇〇県を観光日本一にしたい」

(例2) 「世代や国籍を超えた地域のつながり作りに貢献していきます」

上の2つの例は、実際の合格者の志望動機の一部です。

(例1)のように「日本一にしたい」という熱い気持ちを伝えるのもよいですが、ちょっとそれは気後れするという方も多いかもしれません。ここで大事な
のは、どのような自治体にしたいのか、その自治体の将来像を伝えることで
す。「高齢者が充実した福祉サービスを受けられるような市を目指したい」といった内容もよいでしょう。

また、(例2)のように、自治体職員としてどのような貢献をしたいのかを示すことも、志望動機の最後のまとめ方としては効果的です。志望動機で、しっかりと意欲・熱意を伝えてください。



第1章 ここがポイント

地方自治体の面接では、志望動機が重要。

- ①受験自治体の課題を整理する
- ②受験自治体の政策を調べる
- ③自治体職員として何ができるかを考える

そして最後に、

自治体職員としての熱意・意欲をしっかりと伝えること！

.....

第2章 国家一般職

(人事院面接)

——幅広い質問に対応できるようにする



国家一般職も受験したいのですが、対策ってありますか？



国家一般職では、とりあえず人事院の面接で最終合格しなければ、官庁では働けませんね。いわゆる官庁訪問の面接では、官庁訪問の期間に職場訪問をし、現役職員に質問したり相談しながら面談や面接を繰り返していくので、面接では自分の言葉で表現できると思います。また、面接官側もじっくりと内面をみている印象があります。



なるほど。でも人事院面接では違うってことですか？



人事院面接の場合は、とにかく面接カードの書く欄が狭いうえに、面接時間も少なめです。そこで、自分の思いを端的に説明できるかがポイントとなります。

ここからは、国家一般職（人事院面接）でポイントとなる3つの項目（志望動機、専攻分や、関心事項）について説明していきます。

1 志望動機・受験動機

国家一般職の面接カードの「志望動機・受験動機」の欄は、せいぜい書けて3行。45字程度になります。ありきたりのことを書いてはいけない、というのが公務員面接の一番大事なところですが、正直なところ、国家一般職についてありきたりでも仕方なく、ありきたりに書いても合格している受験生が多いのが実情です。

「国民のため」「安心して快適な生活環境をつくる」といったよくあるワードを使ってもかまいません。

ただ、国家公務員の場合は「志望官庁等」という欄があり、ここが肝になります。人事院の面接官は3人で、その中に志望官庁の職員がいる可能性も十分にあります。

したがって、「志望動機・受験動機」を書く際は、その志望官庁と関連づけて言葉を選んで書いてください。なお、志望官庁が複数ある場合は、それぞれの志望官庁に共通した内容を書くように注意しましょう。

面接カードでは「ありきたりの言葉で短く」書いても問題ありませんが、それをベースに、実際の面接でしっかりと答えられるように、志望官庁でどのような仕事に携わりたいか、それはなぜなのかを、これまでの経験をふまえながら説明できるように掘り下げておくことが大切です。

2 専攻分野

国家一般職の面接では、専攻分野について問われることがよくあります。ゼミに所属している方は、自信をもってそのゼミで扱った分野について記入してください。学生の場合は卒業論文について問われることもありますので、分かりやすく説明できるように練習しておきましょう。

一方で、大学によってはゼミが必修ではない場合もありますが（法学部によくある話です）、ゼミに所属していなくても問題ありません。その場合は、もし質問された場合に話に困らないように、演習形式の講義であったり、最も興味深かった講義または得意だった講義の科目を書いておきましょう。

なお、面接でのポイントは、①なぜその科目を専攻しようと思ったのか、②何を学んだのか、を端的に分かりやすく伝えることです。特に①について ダラダラと説明してしまわないようにしましょう。

3 関心事項

国家一般職の人事院面接では、面接カードに沿ってそれぞれの項目についてまんべんなく質問されることが多いです。地方自治体や裁判所事務官では、志望動機や自己PR部分を中心に質問されますが、人事院面接の場合は、関心事項の欄も手を抜かずにしっかりと用意しておかなければなりません。

この欄には、一般的には直近～ここ3か月程度の社会問題について書くこととなります。たとえば、総務省を志望している場合は、マイナンバー制度について書くといったように、志望官庁と関わる内容を書くのもよいでしょう。ただし、面接官の中に総務省の方がいる可能性も十分にあります。したがって、面接カードに書いた以上はしっかりと知識を深め、課題を自分の言葉で説明できるようにしておいてください。

なお、志望官庁とは無関係の社会問題について触れても問題はありません。しかし、その場合は、「本当は〇〇〇の官庁に興味があるのではないですか？」と質問されることがありますので、そこは冷静にしっかりと否定できるようにしておきましょう。



第2章 ここがポイント

国家一般職の人事院面接は広く・深く用意しておくこと。

- ①志望動機は志望官庁と関連づけた内容にする
 - ②専攻分野は何を学んだかを分かりやすく伝える
 - ③関心事項は、正確な知識を入れておく
-

第3章 国家専門職

(国税専門官・裁判所事務官等)

——専門職として働きたいという強い意欲を示す



国税専門官や裁判所事務官は転勤が前提となるので、第1志望ではなく、とりあえず併願する受験生も多い職種になります。



私もすべりどめにしようと考えていました。



しかし転勤以上に、法律や税務といった専門的な仕事に携われるという点に大きな魅力があるため、ここを第1志望としている受験生のレベルはかなり高いと考えてください。したがって、合格したい以上は、面接対策は万全にしておかなければなりません。

志望動機のか考え方

地方自治体と異なり携わる分野や業務が限定されているので、志望動機は考えやすいでしょう。しかし、その分ありきたりの内容となつてしまい、個性がない、つまり意欲の伝わらない志望動機になってしまいます。

そこで志望動機を整理する際には、次のように考えていきましょう。

- ①その職業を知った純粋なきっかけ
- ②第1志望にしようと思った理由
- ③その職業の理想像
- ④やってみたい仕事

①その職業を知った純粋なきっかけ

たとえば、国税専門官なら「ドラマを見た」、裁判所事務官なら「先輩が裁判所で働いている」でもよいです。面接カードに書くか書かないかは内容次第ですが、実際の面接ではそのことが話題になるかもしれないので思い出しておきます。

②第1志望にしようと思った理由

その職業の存在を知ったとしても、なぜ受験しようと思ったのか、重要なポイントになってきます。

(例) 国税専門官

- ・ ドラマを見てかっこよいと思った
- 大学(予備校)の説明会に参加した
- 専門的な仕事ができることに興味をもった
- なぜ専門的な仕事をしたいと思ったか

(例) 裁判所事務官

- ・ 先輩が裁判所で働いている
- 先輩に連絡をとり個別に話を聞いた
- +大学（予備校）の説明会に参加した
- 裁判傍聴をした
- 仕事の内容や裁判所について知ることで、ぜひ働きたいと思った

このように、専門科目（特に大変な記述式）の勉強までして受験しようと思ったきっかけを書いてください。

上記にあげた例は一般的なものです。

これ以外に、

- ・ 国税局（裁判所）が主催の職場見学に参加した。
- ・ 国税局のインターンシップに参加した。

という経験があれば、必ず面接カードに記載してください。意欲を伝えることができます。

③その職業の理想像

その職業の話を知ったりインターンシップを経験していくことで仕事の理解が深まったら、理想像を考えてみてください。

(例) 国税専門官の理想像

= 誠実な納税者が損をすることがないように、強い責任感をもって働く

(例) 裁判所事務官の理想像

= 法律的な問題を抱えている人が、不安に思うことなく裁判所を利用できるようにすること

「この理想が自分の理念と合致している、だから、この仕事につきたい。」という流れで話せるようになると、面接官に意欲を伝えることができます。

④やってみたい仕事

大前提として、国税専門官や裁判所事務官が行なう仕事（業務）を正しく把握することが必要です。といっても、隅々まで知っている必要はありません。その官庁が出している職場パンフレットや採用案内、ホームページに必ず仕事内容が掲載されていますので、それで確認すれば十分です。なお、ホームページには「職員の声」というものがよく掲載されていますので、是非読んで、面接の参考にしてください。

そのうえで、自分は特に何をしたいのか、「裁判所事務官なら、民事なのか刑事なのか家事なのか、それとも分野は問わないので裁判所職員として〇〇〇をしたい」など。自分が職場に働いているのを想像して、やりたい仕事を考えていきます。

その際、総務や人事に携わりたい、というのは専門職としては適切ではありません。

就職すればこのような仕事にも当然携わる可能性もありますが、やはり面接のときくらいは、専門職らしい志望理由を知りたいからです。

以上のことをしっかりと整理しておけば、実際の面接で志望理由について何を聞かれても上手く回答できるはずです。

なお、**面接カードは書ける文字数が限られていますので、重要かつ必要な部分だけを簡潔に書いていきましょう。**足りない部分は口頭で補足していく形になります。



第3章 ここがポイント

●国家専門職は、その仕事をしっかり知ったうえで意欲の伝わる志望動機を作ることが重要

●志望動機を作るには

- ①その職業を知った純粋なきっかけ
- ②第1志望にしようと思った理由
- ③その職業の理想像
- ④やってみたい仕事

これらのポイントをおさえよう！

第4章 プレゼンテーション型 ……………

(特別区など)

———自然な流れになるように構成を考える



面接でプレゼンテーションをすることになりました。ちゃんとしたプレゼンなんてしたことないので、不安です。どうしたらいいですか？



最近、プレゼンテーション形式で自己アピールをさせる自治体が増えてきましたね。プレゼンテーションのキーポイントは、読み上げる原稿の構成、そして、実際の話し方です。何に注意すべきいかみていきましょう。

最近、特別区を始めとした各自治体の面接でプレゼンテーション形式を取り入れるところが増えてきました。公務員は職種を問わず住民説明会や法人に対する提案などをすることも多い一方で、民間企業志望者（や民間企業経験者）と比較すると、まだまだプレゼンテーションのような発表に苦手意識がある方が多いのも理由の1つだと思います。

どんなに良い内容であっても、プレゼンテーションの方法によっては全く面接官の心を動かすことができない、それどころか、面接官が聞いている最中にくびをしてしまうようなものになってしまうおそれもあります。

そうならないためにも、原稿の構成を工夫すること、そして、実際に声に出して伝える練習を繰り返す事が重要です。

1 原稿の構成

ここでは、特別区の3分プレゼンテーションを例に試みていきますが、他の自治体だったり5分間プレゼンテーションだったりしても、考え方は基本的には同じになります。

まず、特別区のプレゼンテーションでは次の構成（流れ）が王道です。奇をてらった構成にする必要はありません。十分に伝わるプレゼンテーションになります。

（大まかな構成例）

- ① 冒頭あいさつ
- ② 志望理由
- ③ 取り組みたいこと＋その理由
- ④ 私の強み
- ⑤ 最後のまとめ

または、

- ① 冒頭あいさつ
- ② 私の強み
- ③ 志望理由
- ④ 取り組みたいこと＋その理由
- ⑤ 最後のまとめ

この流れをもとに、さらに細かく見ていきます。なお、1つめの構成例をもとに説明していきますが、基本的には2つめの構成例にあてはめることができます。

ここでは、特別区の3分プレゼンテーションを例に試してみますが、他の自治体だったり5分間プレゼンテーションだったりしても、考え方は基本的には同じになります。

① 冒頭あいさつ

「それでは、プレゼンテーションを始めさせていただきます。」

あいさつはシンプルに。受験生によっては、「この度はお時間をいただき・・・云々。」と大変丁寧なご挨拶をされる方がいますが、時間制限のあるプレゼンテーションではそのような挨拶は不要です。基本的には、プレゼンテーションの前に、受験番号や氏名、よろしく願いいたします、などといった挨拶は済んでいるはずですので、ここはシンプルに済ませましょう。

② 志望理由

あいさつ後の志望理由は、**簡潔に、大まかなものでかまいません。具体的な内容はそのあとにじっくり説明していきます。**

たとえば、「住民の方々一人一人に寄り添える仕事だから」とか、「住民のニーズを汲み取って政策に反映できる仕事だから」とかで大丈夫です。その自治体を受験する芯となる部分を伝えてください。

③ 取り組みたいこと+その理由

ここからが受験生の個性が出てくる重要な内容になってきます。

自治体職員はジョブローテーションにより様々な仕事に携わることにはなるのですが、**面接段階では、具体的にやってみたい仕事を1つ決めて、それについて説明していただく。**待機児童問題や環境問題、商店街活性化などなんでもかまいません。プレゼンテーション後の面接で具体的にさまざまな質問が

されますので、これまでの経験を通して本当に興味があることにしましょう。そしてその経験・興味が、取り組みたい理由となりますので、ここをセットで詳しく説明してください。

なお、「取り組みたいこと+その理由」を示すときに、唐突に「〇〇〇が取り組みたいです」とすると、流れの悪さが目立ちます。したがって、**取り組みたいことを伝える前に前置きを入れましょう。**

「特別区には〇〇〇な魅力がある。しかし一方で、〇〇〇という課題を抱えている。そこで私は、〇〇〇に取り組んでいきたいです」
このような言い方にすると、自然な流れになります。

④ 私の強み

後半では、「私の強みである〇〇〇という力を活かしたいと思っています。私はこの強みを、〇〇〇で培ってきました」と、自己PRのエピソードを説明していきます。

エピソードは1つにしぼって、面接官がその状況を具体的に想像できるくらいに丁寧に説明してください。志望理由よりも、この自己PRの部分の方を重要視する面接官も多いはずです。

⑤ 最後のまとめ

「私が特別区職員となれましたら、〇〇〇〇して、特別区を〇〇〇な街にしていきたいです。プレゼンテーションは以上です。お聞きいただきありがとうございました。」

このように、**最後は抱負・決意で締めます。**

職員として、どのような姿勢で業務を行なうつもりなのか（たとえば、市民一人一人に誠実で丁寧な対応をする等）、そして、特別区をどのような街にしたいのか（理想像）を簡潔に説明してください。このあたりは、多少はありきたりの言い回しになっても問題ありません。

2 発表の注意点

特別区のように時間制限がある場合は、時間を測りながら、必ず声に出して本番を想定したりハーサルを何度も繰り返しましょう。練習の途中で話すことを忘れていたり、かんでしまったり、いろいろなハプニングが生じます。それも含めて時間をはかります。そしてどんな場合でも3分間でプレゼンが終わるように、原稿を修正していきましょう。

プレゼンテーションでの話し方の大きなポイントは、**メリハリを付けることです。**

自分ではメリハリをつけているつもりでも、実際は全然平坦な言い方になっていることの方が圧倒的に多いです。

アナウンサーのような流暢で完璧な話し方は求められてはいません。

ただ、次のことを常に頭にいれておきましょう。

- ①強調したいときは、声を大きくする。
- ②強調したいときは、声を高くする。
- ③強調したいときは、ゆっくり話す。
- ④強調したいときは、「間」をとる。

プレゼンテーションでは原稿通りに間違えずに言えれば理想的かもしれませんが、決してそれを求めているわけではありません。本番でつかえてしまってもかまいません。伝えたいことを強調して話し、熱意を伝えられれば合格です。そのために、録音してみたり、第三者に聞いてもらうなどして、入念に準備してください。



第4章 ここがポイント.....

●プレゼンテーションの構成例は次のステップで！

- ①冒頭あいさつ
- ②志望理由
- ③取り組みたいこと＋その理由
- ④私の強み
- ⑤最後のまとめ

●話し方に完璧を求めない。自分の話し方の癖を知って、それを改善する努力をしよう。

.....

さいごに

最後までご覧いただきありがとうございました。

ASK公務員では、今後もどこよりも役立つ公務員試験のノウハウや情報をお届けしていきます。不定期に情報を発信していますので、随時チェックしていただけますと幸いです。

また、今後お届けするメールマガジンも楽しみにしてください。

※もしまだ受け取っていないという場合は、念のため迷惑メールフォルダもご確認ください。

今後ともASK公務員をよろしく願いいたします。



ASK公務員代表 中西

面接対策講座・面接カード添削のご案内

■面接対策講座

マンツーマンでしっかりと面接対策を受けたいというニーズに応えた講座です。まったくの初学者から模擬面接でブラッシュアップしたい方まで、どのようなご要望にも対応可能です。

詳細はこちら→<https://ask-koumuin.com/interview-lesson/>

■面接カード添削

面接カードの添削を希望の方はこちらをご利用ください。データのものから手書きのものまで合格に導くために細かくチェックさせていただきます。

詳細はこちら→<https://ask-koumuin.com/interviewcard-onlinecheck/>